

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 7章11～17節>

死者を生き返らせた主イエス。しかし、注目点はそれだけではない。

1 信仰を見て起こされた奇跡ではない — 主は憐れみ深いお方。

イエス様の癒しの奇跡の多くはイエス様への信仰の深さを見られて起こされたものですが、ここは違います。「主はこの母親を見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた」(13)。この奇跡は「一人息子が死んで悲しむやもめ」(12)に対する憐れみから起こされたのです。主イエスが憐れみ深いお方であるということをしっかり覚えたいと思います。

2 主が憐れみ深いお方と信じることは、死をも恐れなくなること！

しかし、「同じ奇跡が私にも起こったら信じるが、私には起こらない」と思う方もあるでしょう。デンマークの偉大な哲学者キルケゴールが、その主著『死に至る病』(1849)の序で、「死者の生き返りは本当に驚くべき奇跡ではない。生き返った者もいずれ死ぬ。本当に驚くべき奇跡は、死を打ち破られたイエス・キリストの復活だ」と述べています。私たちの罪の赦しのために十字架にかかって死に給うた主イエスが復活されたことが本当に凄い奇跡なのです。このことが起こされたので、私たちの罪の赦しと復活も信じるに足るものとなったからです！ だからこのお方が憐れみ深いお方であることはとても大事なことなのです。

3 旧約聖書に出て来るある出来事を知る時、さらに奥深い話となる。

「イエスは息子をその母親にお返しになった」(15)。実は、これは旧約に出て来る預言者エリヤが自分を助けてくれたやもめの子どもが死んだので神様に祈ったら生き返り、その後主がなされたことを記している表現と一緒なのです。「主は、エリヤの声に耳を傾け、その子の命を元にお返しになった。子どもは生き返った」(列王記上 17:22)。「主」はここでは旧約の神様ですが、今日の箇所ではルカはイエス様のことを「主」と言い表しています(13)。また、イエス様の奇跡を見て、「大預言者が我々の間に現れた」「神はその民を心に掛けて下さった」(16)と神様を讃美した人々はエリヤの奇跡を思い出していたのです。「旧約聖書からの憐れみ深い神様がイエス様において来て下さったのだ」と。奇跡ここにありです。